
公益社団法人 大阪府工業協会

平成30年度 事業計画書

自) 平成30年4月1日 ~ 至) 平成31年3月31日

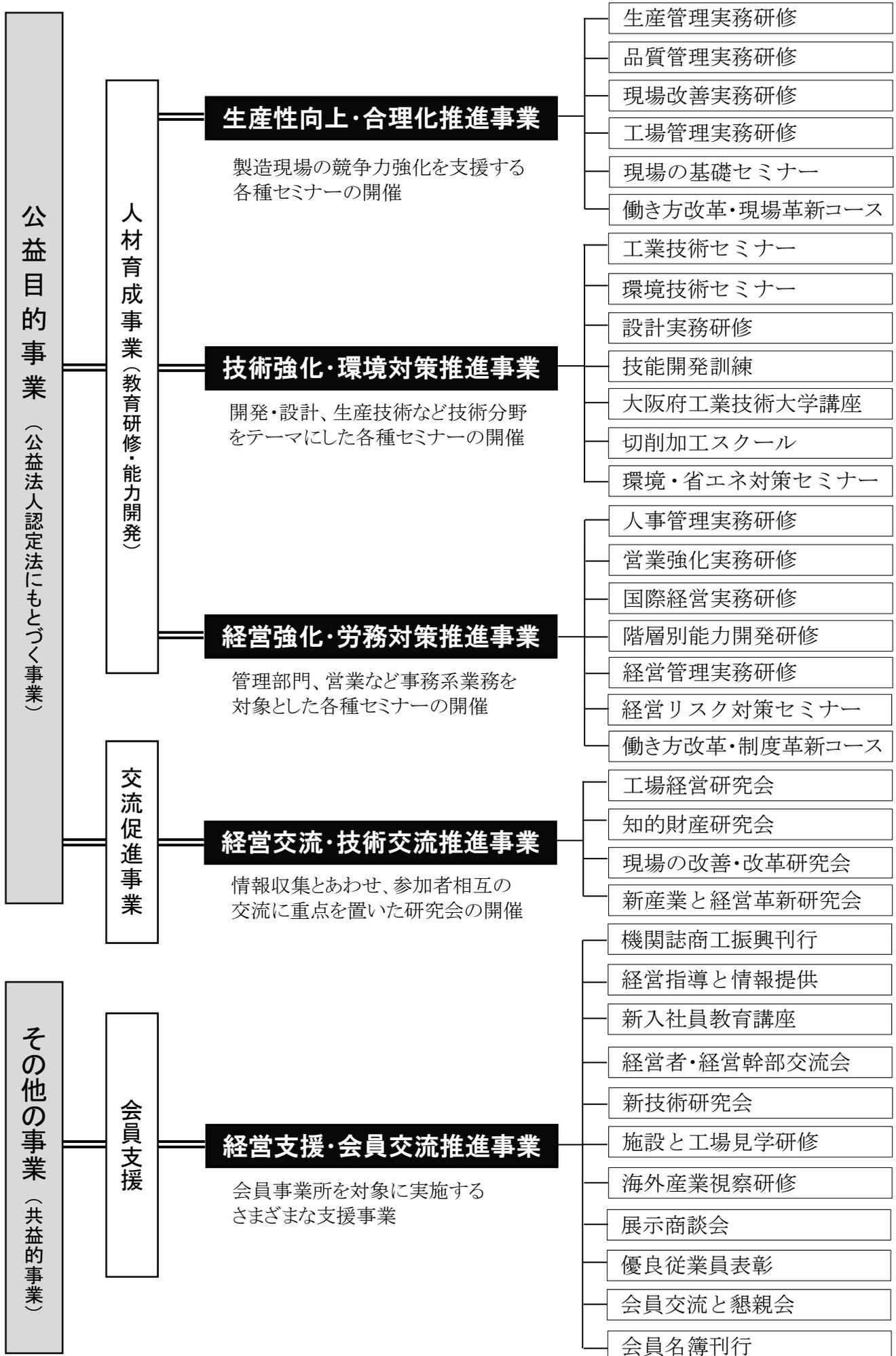
昨今のわが国の経済情勢は、積極的な金融政策や財政出動の効果に加え、企業の経営努力が実を結び、ようやく明るさが広がってきたと言える。企業収益は過去最高水準を更新し、実質GDPは8四半期連続のプラス成長を続けており、雇用情勢は過去最高ともいえる水準に回復している。しかしながら、今後の経営環境をみると、必ずしも楽観視できない。800万人も存在するという団塊の世代がいよいよ後期高齢者の年齢を迎える2025年には、先進国ではこれまで経験したことのないような労働人口の減少に直面する。経済活動の中核となる担い手は、総人口の減少よりも速いスピードで減少することが明白であり、事業の安定的な成長のためには、人材育成こそ喫緊の課題である。

当協会では、激しく変化する経済情勢の中で、企業とくに中小企業が活路を見出し、さらに持続的成長を果たすための支援策として、従来からの基幹事業である「人づくり」につながる研修事業をさらに活発に行い、製造業の基盤強化および新時代への対応を後押ししていく。もう一つの柱である研究会活動・企業間の交流事業についても、将来を見据え、時代の変化に求められる現実的な情報をタイムリーに提供することで多様なニーズに応えていきたい。

次世代の工場最新技術研究会をはじめ、前年度好評をいただいた事業は、さらに発展・進化させる。あわせて、デジタル技術の急速な進展を背景に新規事業として、AI(人工知能)研究会、EV(電気自動車)研究会を立ちあげ、時代の変化に対応した新たな情報をタイムリーに提供する。また、昨年度強化を図った生産性向上や技術力強化、経営管理といった協会の基盤事業については、引き続き研修内容を精査し、強化を図る。公益法人としての使命を果たすべく、平成29年度より充実化を図った会員企業には無料で情報提供を行う研修を継続して開催しつつ、時流に沿ったサービスを新規に展開する。

具体的には、以下に示す計画に基づき、人材育成も交流事業も企業内の各階層、各職種に合ったきめ細かな対応を行い、協会事業をさらに活発に推進していく方針である。

【公益社団法人 大阪府工業協会 事業体系】



平成30年度 事業計画

1

生産性向上・合理化推進事業

高品質な製品づくりはもちろんのこと、生産性のさらなる向上、変種変量・短納期といった市場ニーズへの柔軟な対応など製造企業における課題は山積している。

本事業では、現場力を高める管理・改善の実践手法、ならびにそれを担う人材の能力開発をテーマに、さまざまな切り口でセミナーや研修講座を展開。「人づくり」を通じて、製造業にとっての生命線ともいえる現場の基礎固めとさらなるレベルアップを強力に後押ししていく。

1-1 生産管理実務研修

売れるものを売れる時期に売れるだけ作るというのが企業の命題。そのために必要な生産管理手法（生産計画、工程管理、在庫管理、原価管理など）について学ぶ。

- [テーマ例]
- ・生産管理ベーシックコース
 - ・生産統制のポイント
 - ・工程管理 実践トレーニング
 - ・調達購買力強化研修 など

1-2 品質管理実務研修

品質は企業の信頼や競争力を左右する重要なテーマである。不良品の発生を抑え、また、発生しても外に出さない仕組みづくりが不可欠であり、そのために必要な技術・手法を学ぶ。

- [テーマ例]
- ・品質管理 実務研修
 - ・製造現場のポカミス対策
 - ・検査業務の徹底見直し
 - ・ISO9001 内部監査員養成講座 など

1-3 現場改善実務研修

過剰な在庫、作業の手待ち、装置のチョコ停など、現場に潜在するムダを徹底的に排除し、生産性を高めることで製造原価を下げる。実践に活かすさまざまな改善手法を学ぶ。

- [テーマ例]
- ・現場改善 実践研修コース
 - ・リードタイム短縮の進め方
 - ・手元化の進め方
 - ・徹底3Sの進め方 など

1-4 工場管理実務研修

工場の管理・改善に必要な実務テーマを相互に関連づけ、実務者やリーダークラス、管理者までのスキルアップ研修。幅広い知識を複合的・体系的に学ぶことで、実務力の向上を図る。

- [テーマ例]
- ・多品種少量生産 管理運営の実務
 - ・製造係長 高野山宿坊合宿研修
 - ・現場リーダー基礎力強化研修
 - ・トヨタ流 部下育成の実践 など

1-5 現場の基礎セミナー

「VE」「IE」といった、ものづくり現場の改善に役立つ技法を紹介するセミナー。基本を学び今後の取り組みを促す。製造・技術部門の方を対象とし、学びのきっかけを提供する。

1-6 働き方改革・現場革新コース

政府が掲げる「働き方改革」実現のために労働生産性の向上は不可欠である。そこで、製造現場を熟知したコンサルタントが工場へ出向き、現場の改善点を診断。その後、改善点を踏まえた解決策を出前セミナーにて情報を提供することで、現場力の強化を図る。

熾烈な国際競争のなか、他社との差別化を図るためには、技術や技能にさらに磨きをかけるとともに、イノベーションにより新たな価値を創造していくことが必要である。

本事業では、製品の設計から、切削などの加工技術、機械の保全や環境技術にいたるまで、対象を細分化し、幅広いテーマを設定。また、多くの中小企業で課題となっている技能伝承の一助となるよう、民間企業の研修施設を利用した技能研修や工学系の基礎を学ぶ長期講座を開催するなど、技術水準の高度化、技術人材の育成に注力していく。

2-1 工業技術セミナー

機械や電気など生産技術に関する知識、金属や樹脂材料に関する知識、切削や溶接をはじめとする金属加工の知識など、あらゆる工業製品の製造に関わる技術テーマを網羅的に取りあげる。

- | | | |
|--------|--------------------|----------------|
| 〔テーマ例〕 | ・電気の基礎 | ・樹脂系複合材料活用セミナー |
| | ・金属加工技術（切削、溶接など） | ・金属部品の超音波洗浄 |
| | ・金属表面処理（塗装、熱処理など） | ・接着の基礎とトラブル対策 |
| | ・金属材料の基本（鉄鋼、ステンレス） | ・電気設備の故障診断など |

2-2 環境技術セミナー

企業の社会的責任として求められる環境負荷低減や温暖化防止への取り組み方を解説。あわせて知っておかなければならない環境関連の法規制についても取りあげる。

- | | | |
|--------|---------------------|---------------|
| 〔テーマ例〕 | ・生産現場のエネルギーコスト削減策 | ・工場に必要な排水処理技術 |
| | ・工場エアの省エネ&トラブル対策 | ・化学物質の適正管理 |
| | ・環境法規制 基礎知識と対応策 | ・廃棄物管理の実務 など |
| | ・ISO14001 内部監査員養成講座 | |

2-3 設計実務研修

設計は品質やコストを決定づけるため、それを担う技術者のスキルアップは欠かせない。また、図面はものづくりの共通言語であるため設計・製図に関してさまざまな研修を開催する。

- | | | |
|--------|------------------|---------------|
| 〔テーマ例〕 | ・図面の基礎（読み方、寸法公差） | ・設計段階での原価見積り |
| | ・検図チェックシートの作り方 | ・自動機設計の勘どころ |
| | ・設計者のための加工技術基礎知識 | ・治具設計入門セミナー |
| | ・後工程を理解した図面の描き方 | ・機械部品の強度設計 など |

2-4 技能開発訓練

知識修得だけでなく実際の現場での技能を身につける研修を開催。研修施設を持つ企業と提携し、専門の指導員による技能訓練を行い現場作業者のレベルアップを図る。

- | | | |
|--------|-------------------|------------------|
| 〔テーマ例〕 | ・機械保全 実践力強化研修 | ・からくり改善 実習コース |
| | ・油圧技術 基礎知識とメンテナンス | ・スプレーガン塗装作業実習 |
| | ・工場の電気設備における日常点検 | ・空気圧技術 実践研修 |
| | ・射出成形技術 実践研修 | ・シーケンス制御 実践研修 など |

1年間にわたる技術者育成研修。次代の技術力を担う若手・中堅技術者を対象に、機械系の工学基礎理論から応用技術知識までの修得、さらに高度な先端技術への理解を深めることを目的として、講義、実習、見学を行う。

昭和36年以来毎年継続して開講しており、これまでに2,500名を超える修了生を送り出してきた。就業と研修の両立のため、講義は夜間に実施。大学の機械系学部に準じた基礎・専門科目をじっくり学ぶとともに、旋盤・溶接・CADなどの実技科目、実際のものづくり現場に触れる見学科目を組み合わせ、技術者としての総合力を養う。

今年度は、より実学指向を目指して講義内容を見直すとともに、企業の実務者が講師を務める特別講義科目では、最近のトピックテーマに再編。また、見学研修の訪問先再選定を行うなどプログラムの充実を図り、第58期として実施する。(4月開講～翌年3月修了。計130日間)

〔講義研修〕 材料力学、金属材料、機械要素、製図、加工技術など21科目
(大阪府立大学大学院工学研究科の教授を中心に講師を招聘)
特別講義として、知的財産、3Dプリンタ、生産革新など6科目

〔実技研修〕 NC旋盤、油空圧、溶接、CADなど7コースを設定(選択制)
(ポリテクセンター関西・兵庫の実習施設にて実施)

〔見学研修〕 ダイキン工業(株)、(株)西島製作所、(株)ジェイテクトなど10社を訪問

2-6 切削加工スクール

切削加工は機械部品の製作において必須の加工法である。しかし、最近では、工業高校や大学の機械系学部でさえ学ぶ機会が減っており、現場に配属されて初めて接するような状況にある。本講座では、切削加工技術者に必要な知識を体系的に把握・理解することを目的として夜間17回の講義、工具メーカーによる5回の特別講義、8回の実習、2回の工場見学を組み合わせた7か月間のプログラムを編成。実施にあたっては、大阪工業大学工学部の協力を得て、経験豊富な講師陣を迎えるとともに大学が保有する実習機を活用し、より実践の場で役立つ内容とする。

〔講義研修〕 金属材料、切削加工、図面といった技術の基礎知識に加え、
工具や油剤メーカーの技術担当者による実務講義(夜間に実施)

〔実技研修〕 旋盤、ボール盤、立フライス盤、NC加工、測定実習の5科目
(大阪工業大学ものづくりセンター〈モノラボ〉で実施)

〔見学研修〕 工作機械メーカーとしてDMG森精機(株)を
切削工具メーカーとして大昭和精機(株)を訪問

2-7 環境・省エネ対策セミナー

パリ協定を受けてわが国は、温室効果ガス排出量の削減目標を掲げ、エネルギー需給構造の見直し、電源構成のベストミックスの議論の中で、徹底した省エネの実践を強く表明している。そのためには、エネルギー多消費の工場のみならず、中小事業所・工場の立場から時代の変化に応じた省エネ技術へのハード面・ソフト面のアプローチが求められる。企業への情報提供の一環として、ボイラやコンプレッサといった工場設備の電力コストを削減するための方策や、エコアクション21などの環境対策を取りあげ、実践展開できる知識を身につける。

企業の持続的発展のためには、限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ）をいかに活用し、パフォーマンスを高めていくかが大きな課題である。日本の人口は減少の一途を辿り、国内需要の縮小は避けられず、労働力確保の難しさもこれから顕在化してくる。飽和状態にある市場では受注獲得に向けた競争もますます激しくなり、収益を確保していくには営業力強化とともに経営管理体制の充実も欠かせない。また、成長市場を求めて海外へ打って出ることも必要になってくる。

こうした経営上の課題に対処していく人材の育成、能力開発が本事業の目指すところである。

テーマは幅広く、経理および経営管理、人事労務管理、営業戦術、グローバル化対応、さらには従業員個々のスキルアップまでもが含まれる。個別の職務や階層に合わせた研修講座、セミナーを開催することにより、生き残りをかけて経営革新に取り組もうとする企業を支援していく。

3-1 人事管理実務研修

労働関係法令の理解を促し、各種手続き業務をはじめ、従業員の採用や人事考課、賃金、処遇など、人事労務に関するテーマを全般的に取りあげる。

- 〔テーマ例〕
- ・実務者のための事務手続き
 - ・面接トレーニング
 - ・事例で学ぶ 労務トラブル予防対策
 - ・賃金制度の見直し
 - ・大学新卒者 採用のテクニック
 - ・海外勤務社員の保険と税務 など

3-2 営業強化実務研修

基本的な営業マナーや商談・交渉スキルといったすべての営業社員に必要な能力と、管理職として組織をまとめるマネジメントスキルなど、階層ごとに求められる能力を習得する。

- 〔テーマ例〕
- ・営業の基本と営業スタイルの確立
 - ・営業OJTの実践
 - ・第一線営業マン 基礎力強化研修
 - ・商談の進め方
 - ・営業マネージャー研修
 - ・技術営業のテクニック など

3-3 国際経営実務研修

事業のグローバル化対応のためのセミナーを開催。経営者層には意思決定や戦略立案につながるテーマを、実務者向けには貿易書類の作成、法律知識などのテーマを取りあげる。

- 〔テーマ例〕
- ・初任者のための貿易実務基礎
 - ・海外販路開拓の進め方とリスク対策
 - ・海外取引の英文メール
 - ・安全保障輸出管理
 - ・海外進出事業計画の立て方
 - ・ビジネス英語コース など

3-4 階層別能力開発研修

経営目標の達成に向けた各自の責任・役割の自覚を促すため、各階層に求められる実務知識・基本行動を整理する。立場に応じた職責を全うするための要諦を演習やグループ討議を通じて指導する。

- 〔テーマ例〕
- ・取締役 実務力強化研修
 - ・若手が育つ職場づくり
 - ・部長／課長／係長／主任研修
 - ・人財定着のチームづくり
 - ・課長の決断力
 - ・“怒り”の管理術 など

3-5 経営管理実務研修

経営管理機能の強化を目指して、経営者・経営幹部・管理スタッフを対象に、具体的な実務課題を取り扱った中長期の研修を実施する。

- [テーマ例]
- ・初めて学ぶ経理
 - ・社長が知っておくべき経理の基礎
 - ・人事部長のための人事労務管理実務
 - ・ホワイトカワの生産性向上
 - ・Excel を活用した業務効率化の実践
 - ・一日で学ぶ 年末調整の実務 など

3-6 経営リスク対策セミナー

情報提供の一環として、人材に関する課題・悩みを解消するためのヒントを掴んでいただくテーマ、ならびに企業が抱えるさまざまな経営リスクに対する対策を学ぶテーマを取りあげる。各部門の実務担当者を対象とした具体的かつ詳細なセミナーを複数回にわたり開催する。

- [テーマ例]
- ・メンタルヘルスケアの考え方
 - ・労働災害の予防策
 - ・労基署の臨検監督 その実態と傾向
 - ・ネットセキュリティ など

3-7 働き方改革・制度革新コース

働き方改革という大きな流れのなかで、従来の就業規則を見直す必要に迫られる企業も多い。そこで、社会保険労務士などの専門家を企業に派遣し、最新の労働関係法令を解説しながら、当該企業の就業規則の改訂方法を指導する出前セミナーを実施する。

本事業は、新しい知識・情報を得るだけでなく、参加者相互の交流および連携の促進を図る研究活動を主体としたもので、研修などの人材育成と並ぶ協会事業の大きな柱である。

企業活動にあたって必要となるさまざまな経営課題、製造業では欠かせない生産技術や加工技術、また話題の新しい技術など、ユニークなテーマを設けた研究会を多数開催。中長期にわたり1つのテーマに沿って定例会合を開き、講義一辺倒ではなく、参加者間の意見交換や情報交流を盛り込んで相互研鑽を図る。

異業種・異分野の多彩な企業、かつ規模の大小を問わずさまざまな企業が集うのは、当協会ならではの特色である。その相互理解を促し、そこから新たなビジネスの芽を育むことも産業団体としての使命であると考えており、本事業は今後さらに充実させていく。

4-1 工場経営研究会

ものづくり企業の経営幹部・工場責任者が一同に会し、ディスカッションや情報交換により相互研鑽を図る。企業規模や事業内容が違っていても、製造業の経営の一翼を担う者として共通する課題を取りあげ、全18回の研究会を開催。各回のテーマは、生産管理や改善手法など工場に不可欠な実務知識から、財務・法務問題、人事労務、人材育成までを幅広く網羅している。将来にわたって事業を継続させていくための先導者として、経営感覚を身につけるとともに、経営の視点から工場全体を統括・マネジメントできる力を高めていく。

4-2 知的財産研究会

企業における法務や知的財産担当者、研究・開発部門スタッフ、および弁護士・弁理士などの専門家を対象に全10回の研究会を開催。運営にあたって大阪工業大学知的財産学部と連携し、これからの知財保護・活用戦略を考えるさまざまなテーマを取りあげる。今年度は、昨年参加者アンケートで要望が多かった、企業の知財活動の実例、海外展開にまつわる知財面での攻めと守りの戦術、制度改定に伴う実務対応といった、喫緊の課題を掘り下げていき、情報収集のみならず参加者間の意見交換を行う。

4-3 現場の改善・改革研究会

日本が世界に誇れる分野であるものづくりをさらに磨きあげるには、現場の知恵と工夫による改善にさらに注力しつつ、最新技術を追求する必要がある。常に求められる変化と革新に対応できるよう、ユニークかつ豊富な事例と実践知識を学ぶ場として研究会を開催する。

「最新 工作機械加工技術研究会」

最近の工作機械は、超精密加工、高速化、省エネ性など時代の要請に合わせて進化を続けており、国際的な企業間競争を勝ち抜くために、より一層技術レベルの向上が図られている。そこで、工作機械の最新情報を得るため、機械メーカーの見学や先進事例を紹介する講演会を催す。

「簡易自動化研究会」

最先端の情報展開だけでなく、現場の地道な改善に着目。お金をかけずに現場の知恵を結集し、手軽にでき、そして大きな効果を生む簡易自動化を取りあげる。ものの重力やこの原理、ぜんまいや滑車などのからくり機構と、モータやセンサなどの動力や簡単な制御機器を活用し、絶大な効果をあげた具体的な事例に触れ、工場の体質強化に役立てる。

4-4 新産業と経営革新研究会

変化の激しい時代には、自身の目と耳で的確な情報を収集することが欠かせない。そこで、新たな市場領域の開拓、異分野でのビジネスチャンスの獲得、あるいは生産システムの再構築など、事業の新展開につながるヒントを得るため、以下に挙げるようなさまざまな研究会を開催。個々の企業ではなかなか得られない情報に触れる機会を提供する。

「進化する次世代の工場 最新技術研究会」

ものづくりは今、世界的に大きな変革の時を迎えている。先進企業では、それぞれのニーズに合う一品一様の製品を大量生産と同等レベルの効率やコストで作る生産方式へと進化しつつあり、オンデマンド生産、パーソナライズ化、スマートファクトリー化などといったキーワードで語られている。これらのものづくりを可能とするのは、最新ロボット技術やFAシステム、デジタル機器などに代表される最新テクノロジーである。本研究会では、次世代の工場をテーマに、生産現場のIT化・IoT化、ロボット活用などの事例を紹介する。

「3Dプリンタ実践活用研究会」

「ものづくりの世界を変える」「誰でもメーカーになれる」などと話題の3Dプリンタ。これまでの常識では考えられなかった用途や実際の製品に利用され始め、中小企業においても活用する動きが広がっている。本研究会では、3Dプリンタに関わる最新情報、およびさまざまな導入事例を取りあげ、3Dプリンタを導入するにあたってのヒント、活用するためのノウハウを提供する。

「EV（電気自動車）研究会」

現在、自動車業界のトレンドは「電動化」。ガソリンやディーゼル車からEV（電気自動車）へのシフトが急速な勢いで全世界に広がりつつあり、この潮流は従来の産業構造を大きく変えるインパクトがある。こうした変化の現状と今後の展望を知り、これからの事業展開に役立つヒントを見出すことを狙いとする。

「AI（人工知能）研究会」

新たなサービスやビジネスの創出、製造現場の労働力確保、付加価値生産性の向上、熟練者の技能の継承といった、さまざまな課題に対し、AI（人工知能）実用化による解決に大きな期待が寄せられている。そこで、新企画としてAIで何が変わり、何ができるのかを探り、工場はもとより企業全体でのAI活用に向けたヒントを提供する。

当協会は約 1,200 社からなる会員組織を有し、大企業から小規模企業まで、また機械、金属、電機、化学、食品、あるいは卸売業といったように、規模や業種の異なる多様な事業所が参画していることが大きな特色である。こうした会員事業所間の有機的な連携と協調を促進するため、経営支援および会員交流に関わる事業を積極的に展開していく。

5-1 機関誌商工振興刊行

大阪府商工労働部監修

会員事業所へのインタビュー記事や、専門家による解説記事、行政からの広報などを収録し、毎月 1 回発行。また、会員事業所の歴史や創業者の逸話などを紹介する「創業者偉人伝」をはじめ、新連載企画として「私が大切にしている言葉」「私のお薦めの一冊」「人事労務 Q & A」「製造現場の原価低減策」「中小企業の事業継承」といった協会ならではの企画記事を掲載する。

5-2 経営指導と情報提供

会員事業所からの経営上、技術上の相談に応え、情報提供や専門家の紹介を行うほか、社内研修の要望に対しては、ニーズに合ったカリキュラムの編成から講師派遣までをサポート。従業員の自己啓発・自主活動に対しては、通信教育講座および研修用 DVD 教材の貸し出し等により対応する。さらに、会員事業所を対象とした参加無料の講演会を開催し、時宜に応じたトピック的なテーマを取りあげ、経営に役立つ情報を発信していく。

5-3 新入社員教育講座

新入社員に社会人としての自覚を促すとともに、働くうえで必要な基本行動・知識を修得させる。総合基礎教育のほか、職種別の導入教育やビジネスマナー研修を実施。さらに、機械金属・プラスチックメーカーに的を絞った専門知識を修得できる研修、規律や礼儀を身につけさせる禅寺合宿研修など、多様なニーズに合わせたカリキュラムを提供する。

5-4 経営者・経営幹部交流会

経営者が経済の状況を見極め自社の明日を考察する機会として「経営セミナー」を開催。特色ある事業展開や商品戦略で注目を集める企業の経営者を招聘しての講演を行い、あわせて講演者・参加者の交流懇親会も開催する。また、経営者以外にも対象を広げ、各部門の幹部層の相互交流の場として、「工場長大会」「人材活性化フォーラム」「営業マン大会」（仮称／新規事業）を開催する。また、若手経営者の交流・研鑽の場である「朝活」を定期開催する。

5-5 新技術研究会

需要の変動に対応し、変種変量生産を機敏にこなす工場。オンリーワン技術で強みを発揮する工場。海外生産拠点のマザー機能を発揮する工場。などなど国内生産で強い競争力を持つ工場はまだまだ数多く存在し、日本のものづくりの底力を体現している。こうしたメーカーの現場見学と技術講演を行い、独自のコンセプトを見る・聴く・学ぶことによって最新の技術動向を掴み、今後の経営や工場運営に役立つ情報を吸収する。

5-6 施設と工場見学研修

異分野の現場に学ぶ見学研修を積極的に実施し、経営者あるいは技術者の情報収集ニーズに応えていく。三現主義という言葉があるように、机上の論理ではなく、「現場」で「現物」を観察し「現実」を認識したうえで問題解決を図ることが重要である。とくに、ものづくりにおいては現場から学ぶことが多く、生産性の向上、製品の改良、新製品開発のヒントも現場でこそ見出すことができる。工場以外に、研究機関や物流施設などへも訪問する。

5-7 海外産業視察研修

日本企業の海外事業所や現地メーカーを訪問し、実際の姿を見聞、学ぶ機会を提供する。大手メーカーの国内回帰が進む状況においても、市場のグローバル化は無視することはできない。国外の経済情勢は刻々と変化しており、「百聞は一見に如かず」の言葉どおり、現地を訪れることには大きな意義がある。海外のものづくり現場の実地見学および現地法人責任者とのディスカッションを通して、マスメディアでは得られない活きた情報を掴む。

5-8 展示商談会

会員事業所と大手メーカーとをつなぐマッチング事業として、会員事業所が持つ技術・製品を直接アピールする「展示商談会」を実施。今年度は、日産自動車㈱の技術研究所（日産テクニカルセンター）を会場に、50 ブース程度を設けた展示会を開催し、同社の調達・技術担当者や関連サプライヤーへの販路開拓を支援する。

5-9 優良従業員表彰

会員事業所における労使関係の安定と従業員の勤労意識増進を図るため、昭和37年より毎年実施している「優良従業員表彰」。永年勤続かつ他の模範となる従業員として事業主から推薦を受けた者を選考し、会長名による表彰を行う。

5-10 会員交流と懇親会

会員企業経営者・事業主の相互理解と親睦を深め、連携・協力が円滑に図られるよう、交流・懇親の場を設ける。

* 新春年賀交歓会 * 会員交流ゴルフコンペ

5-11 会員名簿刊行

会員事業所の紹介と会員の相互交流・融合化の一層の促進を図ることを目的に、所在地、従業員数、事業内容などの現状調査を行い、会員名簿を刊行する。